

平成30年度聴覚障がい児(者)実態調査事業 (概要)

目的：鳥取県聴覚障害者協会と共同して、きこえない・きこえにくい人の実態把握のための訪問調査を行い、サービスの向上につなげる。

対象者：身体障害者手帳所持者で聴覚障がいのある方及び難聴の方

○身体障害者手帳所持者で聴覚障がいのある方には協力依頼文書を発送

文書発送者数 105人

回答者数 65人(回答率62%)

協力可能者数 35人(協力者数/手帳所持者数・・・33%)

○難聴の方 市報や市ホームページで募集

申し込み者 1人

○調査実施者 35人(1人キャンセルあり)

年齢内訳(平成30年6月1日現在の年齢)

6歳 1人 40代 1人 60代 3人

70代 9人 80代 19人 90代 2人

(70代以上 30人 86%)

○調査方法

市職員1人と協会の方1人(手話通訳のある場合は協会の方2人)でご自宅又は施設を訪問し、聞き取り票により聞き取りを行った。

調査方法は主に音声や筆談。手話の方は3人おられた。

○調査日時

平成30年8月20日～9月26日

○調査内容及び結果

・サービスの利用について

利用しているサービス

補装具(補聴器)24人、手話通訳を利用が2人、要約筆記は1人おられた。

・コミュニケーションについて

きこえにくくて困ること

防災無線が聞きとりにくい。

⇒防災無線については、放送内容の確認方法についてご案内した。

(FAX配信、あんしんトリピーメール、防災ラジオの貸し出しなど)

・きこえやコミュニケーションについて相談できる人 ①家族②相談員

・災害時の情報入手方法 ①家族②テレビ

* 今後は調査結果をもとに各種施策や制度の周知を図り、必要なサービスの利用につなげていく。